

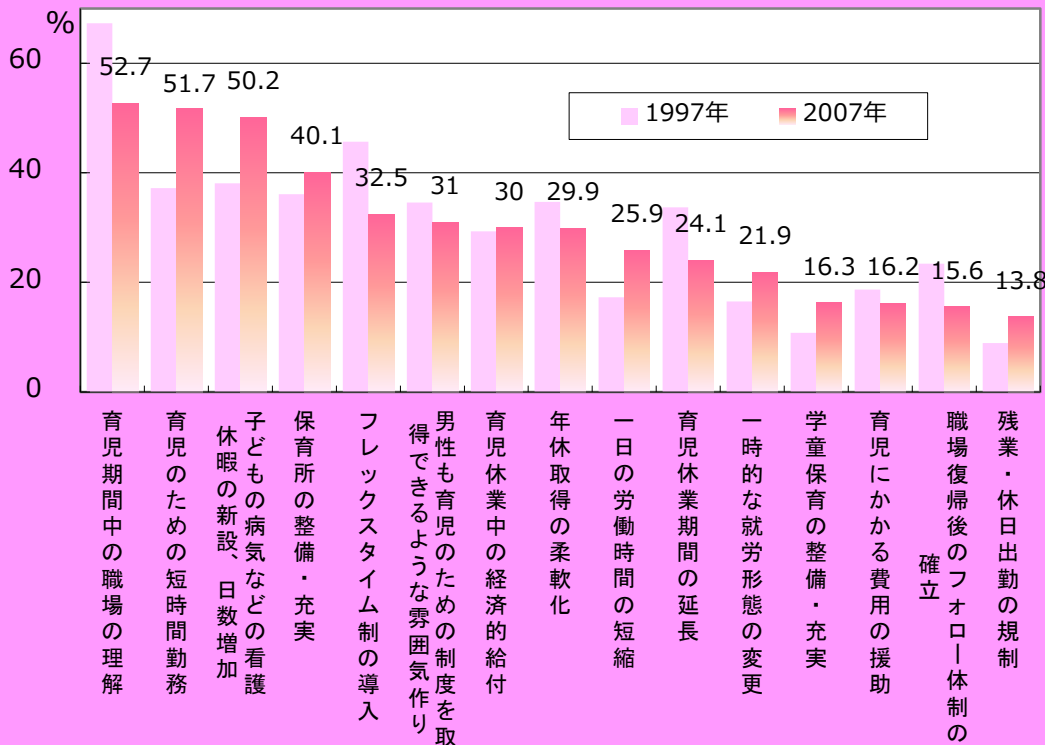


R48 ROADMAP

[アールよんぱち] 2012.2.20 No.11

共働きって大変ですよ。働く女性が求めるものに変化は？

共働きをしながら育児をしていくために必要な環境整備 (5つ以内選択)



短時間勤務、子供が
病気になったときの
看護休暇などを
求める人が増えて
います。



(日建協 2008 働く女性のアンケート報告より)

女性技術者会議

働き続けるために必要なことは？

女性技術者会議を開催

産業政策

国交省の施工円滑化にむけた制度

設計変更審査会とは

単組から

大鉄労組より

勤務時間の制度改正が 時短につながりました

次号予告

■建設産業を身近に感じて欲しい

科学ライブショーユニバース

- 提言活動
- コラム

お知らせ

「Roadmap48」とは

建築工事の4週8休(週休2日制)での工期設定の実現や、公共工事における労働条件向上と諸課題の解決にむけた提言活動など、日建協の活動を組合員の皆さんに知っていただくための広報誌です。

①組合活動の資料として、②職場での情報交換の材料としてご活用ください。

- 次号の予定は変更する場合があります。
- この広報誌は日建協ホームページからダウンロードできます。

http://www.nikkenkyo.com
NIKKENKYO NEWSをご覧ください。

2011年度 女性技術者会議開催



女性技術者会議を昨年に引き続き開催した。今回の会議テーマは、今までの会議から多くの声があがっている「ロールモデル」をテーマとしている。

会議は日建協13加盟組合から平成4年～23年入社
の計18名の女性技術者が参加した。また、会議の趣旨
を理解いただき、内閣府男女共同参画局推進課推進係長、
兵庫県にある武庫川女子大学建学科助教、建設業振興基
金の機関誌「建設業しんこう」編集担当、さらに東洋大
学、武庫川女子大学から3名の学生、計6名も同会議に
オブザーバーとして参加した。

会議では、「働き続けるための『ロールモデル』に必要
なこと」と題し、日建協が予め「ワーク」と「ライフ」
の条件設定を行ったモデルをもとに討議を行った。

女性技術者は与えられた条件のもと、働き続けるため
に障害となる「問題点」を抽出し、その「改善案」を檢
討した。

働き続けるための「ワーク」の問題点として、長時間

労働について取り上げ「休日が不明確で、デートすら、
ままならない」「とにかく、自分の時間がない」など、切
実な意見が多くあがった。改善案として「帰ろう、休も
うとする意識を個人、職場のそれぞれで共有する」「適正
な工期で工事を受注することは重要」と示した。

「ライフ」の問題点に関しては、配偶者が家事・育児
を積極的に分担できるよう、企業や行政に対して支援策
を求める意見があった。また、「自身が先輩になるという
気概を持ち、働き続けることが大切」と前向きな意見も
あがった。日建協は、この会議で得られた問題点や改善
案を、企業や行政など産業内外に発信し、建設産業のワ
ーク・ライフ・バランスの実現につなげていく。

※会議の詳細内容は機関誌「Compass」vol.793にて紹介します

大鉄労組より

勤務時間の制度改革が 時短につながりました

大鉄工業では鉄道に関
連した夜間工事が多
く、また、施工時間も鉄道運
行の合間となるため、労働時
間も影響を受けやすく、効率
的な労務管理を行うという
理由で「一箇月単位の変形労
働時間制度※1」を導入しま
した。



月中においての業務波動
に対応できることから、休日
も取得しやすくなり、結果的
に時間外労働の削減という
メリットが生まれました。
「社員の生活設計の改善
が図れることにつながっ
た。」とお聞きしています。

※1 一箇月単位の変形労
働時間制度とは？
一箇月間の労働時間を平均
して各週の所定労働時間を決
める制度です。変形労働時間
を平均して一週間の労働時間
が週四〇時間以下になってい
れば一日八時間、週四〇時間
を超えても時間外労働の扱い
をしなくても良いという制度
になっています。例えば、月
初めは余裕があり、月末の一
週間だけ月末締め処理で忙
しい場合などに導入すること
が適しています。
導入に際しては前月にあら
かじめ上司が部下に対して勤
務カレンダーを作成すること
が法律上、要求されています。

産業政策

国土交通省の施工円滑化にむけた制度

設計変更審査会とは

日建協では、国土交通省
(国交省)の施策を活
用することにより、無報酬業
務の解消をめざす活動を行っ
ている。

国交省では「施工効率向上
プロジェクト」の取り組みと
して平成二十三年度は、重点
方針に「三者会議」「設計変更
審査会」(審査会と称す)「ワ
ンデーレスポンス」をあげた。
日建協が実施したアンケ
トでは「三者会議」と「ワン
デーレスポンス」の認知度は
九割を超えたが平成二十年度
から全国展開した「審査会」
は名称も内容も知らないとの
回答が三割あった。

「審査会」は、設計変更の
効率化を目的として、発注者
と受注者が「設計変更ガイド
ライン」「工事一時中止ガイド
ライン」を活用し、設計変更
や工事の中止の協議等を行う
取り組みである。受注者から
は現場代理人、監理技術者等
が出席し、発注者からは副所
長(技)、工務課長、主任監督
員等が出席する。「審査会」で
の決定は、設計変更、先行施
工承認に反映され、例えば用
地取得難航による施工方法の
変更協議。地下水位の変更に
伴う土留め工法の変更。天災
等に伴う工事中止の判断およ
び中止に伴う増加費用の協議
などを行っている。